

中学校 //

平成 10 年 度

# 教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

平成10年度

教育研究員名簿（特別活動）

分科会名	区市町村名	学 校 名	氏 名
第一分科会 学級活動	墨 田	向 島 中 学 校	鳥 羽 博
	杉 並	神 明 中 学 校	吉 川 修 央
	足 立	第 十 四 中 学 校	西 川 孝 夫
	八 王 子	長 房 中 学 校	◎ 山 下 博 一
	小 金 井	緑 中 学 校	綿 貫 知 己
	東 久 留 米	下 里 中 学 校	蓮 池 和 彦
	第二分科会 生徒会活動	品 川	城 南 中 学 校
大 田		貝 塚 中 学 校	大 字 恵 美 子
豊 島		高 田 中 学 校	渡 邊 重 幸
北		稲 付 中 学 校	桜 井 智 美
練 馬		大 泉 学 園 桜 中 学 校	吉 田 昌 彦
府 中		府 中 第 四 中 学 校	森 岡 耕 平

◎ 世話人    ○ 副世話人

担当 東京都立教育研究所相談部指導主事 佐々木 剛

## 研究主題

主体的な学習を通して「生きる力」をはぐくむ特別活動の指導の工夫

## 目 次

I	主題設定の理由	2
II	第1分科会『生徒の活動意欲を高める学級活動の指導の工夫』	
1	副主題設定の理由	2
2	研究の内容	
(1)	研究構想図	3
(2)	個と集団の理解についての実態調査と分析	4
(3)	授業研究の実践と検証	
	授業実践1「学校行事への取り組み（S中）」についての学級活動	5
	授業実践2「学校行事への取り組み（K中）」についての学級活動	8
	授業実践3「学級・学校生活の改善への取り組み」についての学級活動（H中）	10
3	研究のまとめと今後の課題	13
III	第2分科会	
	『各種委員会活動と学級・学年のつながりを重視した生徒会活動の工夫』	
1	副主題設定の理由	14
2	研究の内容	
(1)	研究構想図	14
(2)	委員会活動に対する生徒意識アンケート	15
(3)	委員会活動と学級・学年とのつながりを重視するための活動の工夫	17
(4)	活動の実践例	
	実践例1 委員会からの報告と委員会への要望に 重点をおいた学級活動の取り組み	19
	実践例2 学年リーダー会議実施への取り組み	21
	実践例3 委員会活動についての評価の取り組み	23
3	研究のまとめと今後の課題	24

## I 主題設定の理由

科学技術の発展や高度情報化社会の実現により、社会が大きく変貌する中で、環境教育や福祉教育など様々な課題が学校教育の中に取り上げられてきている。このような認識に立つとき、次代を担っていく子どもたちの活動が、21世紀への目標を抱き、創造的で活力に満ちた豊かな社会をつくる営みに積極果敢に取り組み、世界の中で信頼される日本人として育つための具体的な行動に発展することが求められている。

このような背景の中で、中学校の特別活動は「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことを目標に掲げ、現在及び将来にわたって自己実現を図る能力（自己を生かす能力）を養うことを求めている。しかし、現状は依存心が強い子どもや自己中心的な子どもが多く、また主体的・実践的な活動の力を養うことのできない教員側の指導力不足が指摘されている。そこで本研究では、特に特別活動の中心的な場である学級活動と生徒会活動について取り上げ、主体的な学習活動を通して「生きる力」をはぐくむ指導の工夫・改善を行うことをねらいとして、本主題を設定した。

## II 第1分科会

副主題「生徒の活動意欲を高める学級活動の指導の工夫」

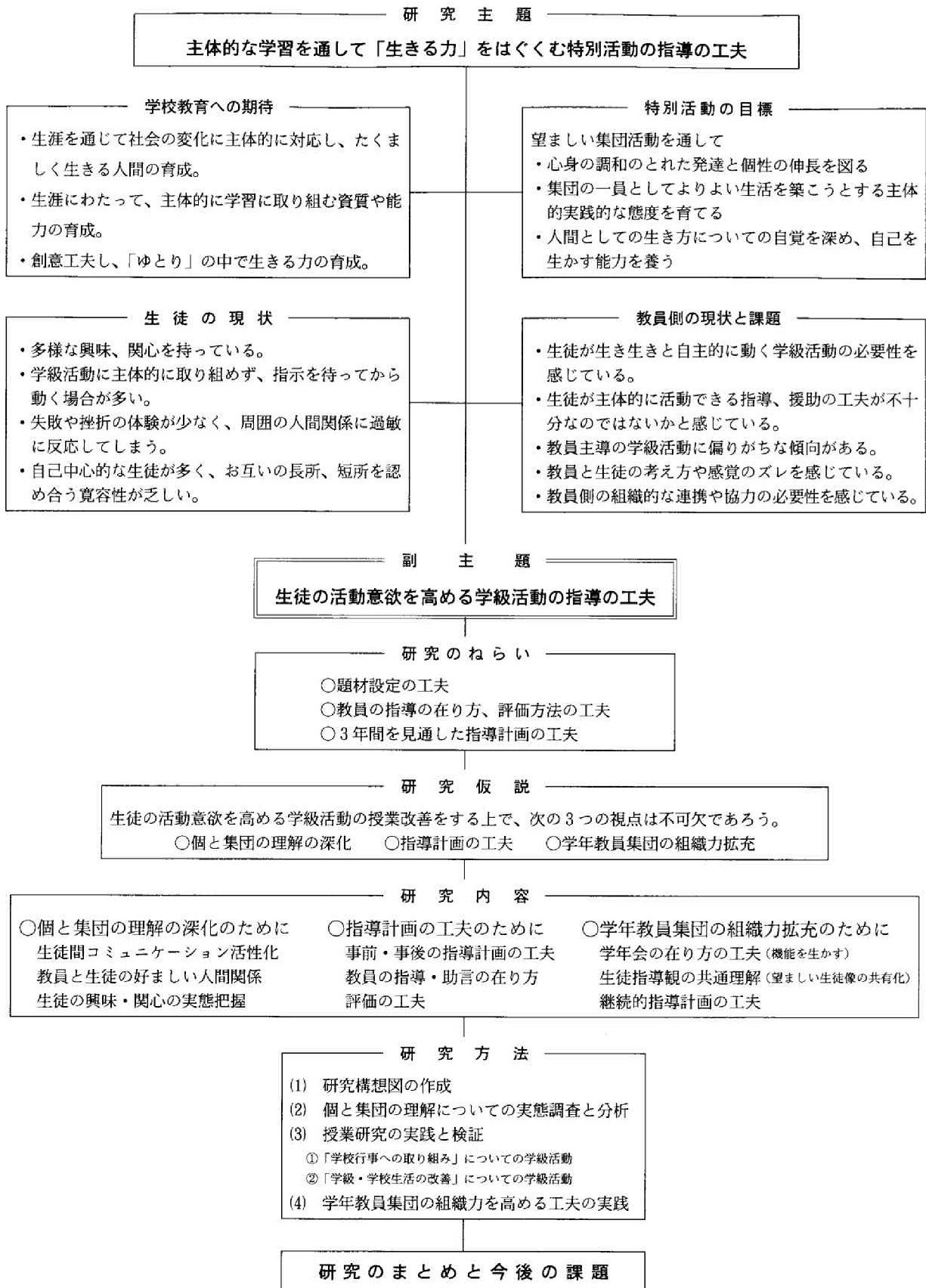
### 1 副主題設定の理由

これからの社会においては、生徒自らが身のまわりや社会の中から課題を発見し、社会の一員として協力しながら、問題解決を目指して活動する意欲・態度、すなわち「生きる力」を身につけることが期待されている。しかし、生徒の現状は教員からの指示待ちが多く、言われたことはやるが、主体的に行動できる生徒は少ない。また、指導にあたる教員についても教員主導の学級指導に偏りがちであり、生徒の主体的な活動を指導・援助する工夫や教員間の組織的な連携や協力が不十分である。

生徒にとって主体的に活動する場は学級活動であり、学校生活の最も大きな基盤であろうと考える。その学級活動において、生徒自らが意欲的に取り組むことができるならば、それは「生きる力」を身につける具体的な活動の基礎になると考え、「学級活動の指導の工夫」を図ることを副主題とした。

## 2 研究の内容

### (1) 研究構想図



## (2) 個と集団の理解についての実態調査と分析

本分科会の副主題を話し合っている中で、生徒の自主的な活動意欲が高まらない点が共通した課題であることがわかった。その原因の一つは、教員が生徒の実態を把握していないからではないかと思われる。そこで、本教育研究員が所属している学校を中心にして、生徒理解を深めるための実践事例を集めることにした。

調査項目については、学習指導要領「特別活動」第3の2をもとに、以下の3つの項目について日常の実践例を調査した。

項目1 個々の生徒についての理解を深めるために実践されていること

項目2 人間的な触れ合いを深めるために実践されていること

項目3 生徒の自発的、自治的な活動を育てるために実践されていること

調査結果は以下ようになった。

### ○項目1について

- ・日常の生徒とのコミュニケーションを深める（休み時間、昼食、清掃活動など）
- ・班ノート、生活記録ノートなどの活用（できるだけ教員がコメントする）
- ・先入観をもたずに観察する
- ・アンケート、感想文、作文の活用
- ・生徒が発表する機会をできるだけ多く与える

### ○項目2について

- ・一人の人間として生徒を尊重する（挨拶、礼儀、言葉づかい、教員からの声かけなど）
- ・学級通信、班ノート、話し合い活動
- ・日常の生徒との触れ合いを深めたり、雑談の時間を大切にする（機会をつくる）
- ・学校行事への積極的なかかわり
- ・部活動の試合などの応援や暑中見舞い、年賀状の交換

### ○項目3について

- ・係、班活動の活性や班会議の開催
- ・学校行事を通じた学級活動の活性化
- ・生徒による自主的な朝学習、学級新聞づくり

これらの調査結果より、次の4点が現在の私たちに不足しているものとして浮かび上がってきた。

- ・生徒理解を深め、教員と生徒との好ましい人間関係をつくる
- ・「やらされている」のではなく、「自分たちで活動している」気持ちを持たせる工夫
- ・アドバイスを与え、生徒の自発的な活動をうながす工夫
- ・生徒一人一人に、自己の役割について自覚と責任を持たせる工夫

以上から、①個と集団の理解の深化、②指導計画の工夫、③学年教員集団の組織力の拡充が必要であると考えます。特に②について学級活動の工夫・改善を図ることをねらいとし、以下に述べる検証授業を行った。

### (3) 授業研究の実践と検証

#### ①「学校行事への取り組み」についての学級活動

##### ア 検証授業1 (S中)

###### ア) 指導計画

###### (i) 題材名 第2学年「合唱コンクールへの目標づくり」

－失敗に学び、成功を生かす－

###### (ii) 題材設定の理由

S中では、2大全校行事として春の体育大会と秋の文化発表会が、生徒実行委員会を中心に自発的、自治的に取り組まれている。文化発表会は、教科や専門委員会、部活動、生徒有志が参加する「展示の部」と合唱コンクールを中心とする「発表の部」からなる。学級対抗による合唱コンクールは、学級の自発的、自治的な力を高め、生徒一人一人を成長させ、学級・学年・全校の文化的雰囲気育てる大切な取り組みである。しかし、同時に生徒間の音楽への興味・関心の違い、思春期に見られる自己表現へのためらい等の理由により、自発的、自治的な取り組みが十分にできず、かえって生徒間の対立に至ったりすることもある。

2学期が始まり、自由曲の選定、伴奏者・指揮者の選出、合唱練習の計画作成という時期を迎えるにあたって、合唱コンクールの意義を理解し、練習に対して自発的、自治的に取り組もうという意欲をはぐくむ機会として、この題材を設定した。

###### (iii) 指導のねらい

- ㉑ 昨年度の合唱コンクールへの取り組みの体験をもとに、学級の合唱に取り組むことの意義を確認する
- ㉒ 今年度の合唱コンクールへの思いを出し合い、共有化する
- ㉓ 昨年度の合唱コンクールへの取り組みを思い出す
- ㉔ 今年度の合唱コンクールに向けての学級目標をつくる

###### (iv) 指導の過程 (資料1参照)

###### (v) 本時の活動テーマ 「失敗に学び、成功を生かそう」

###### (vi) 活動のねらい

- ㉕ 昨年度の合唱コンクールへの取り組みを思い出し、次の点を確認する。
  - うまく行ったことは何か→どうしてうまく行ったのか
  - うまく行かなかったことは何か→どうしてうまく行かなかったのか
- ㉖ 今年度の合唱コンクールに向けての学級目標をつくる。

###### (vii) 本時の展開 (資料2参照)

###### (ix) 評価の観点

- ㉗ 合唱コンクールへの学級の他の生徒の思いを共感することができる。
- ㉘ 昨年度の自分たちの取り組みを客観的に見つめ直し、成果と問題点を明らかにすることができる。
- ㉙ 学級の生徒が自分たちの問題として、合唱コンクールに向けての、話し合い活動に参加できる。

④合唱コンクールに取り組む意義が理解できる。

⑤実行委員は主体的に活動できる。

(イ) 検証授業の中に見られる課題

(i) 学期初めのあわただしい時期ではあったが、事前の準備はほぼ予定通り行うことができ、9月10日5校時の検証授業も多くの方の参観を得るなか、生徒はのびのびと自主的、自発的に活動に参加し、活動のねらいもおおむね実現できたと考えられる。しかし、研究協議の中で、以下の点が課題として指摘された。

①どのように全員が参加できるような場面を設定するか。

○班での話し合いでも意見を言えない生徒がいる。

・班座席にする前にワークシートを配布し、自分の考えを文章にする時間を保障する必要があるのではないか。(資料2のAを参照)

・班で役割分担をしておけば、全員が主体的に参加できたのではないか。

(司会、書く係、発表する係など) (資料2のAを参照)

②時間配分に無駄がなかったか。

○この1単位時間の授業で、合唱コンクールの「学級目標」まで決定できたのではないか。

・時間を取りすぎるとレベルダウンしてしまう。

③「うまくいったことは何か」、「うまくいかなかったことは何か」という設問に問題がなかったか。

・教員の説明に「情意」と「行動」の目標が混ざってしまうために生徒が混乱している。(資料2のBを参照)

④画用紙で短冊をつくり、磁石で黒板に貼りつけるという方法に改善する余地がないか。(資料2のCを参照)

日時	活動の場	活動の主体	活動の内容	指導・援助の留意点
9/1	放課後	実行委員学級委員合同委員会	今後の活動の方向について話し合う。	*音楽の授業のようす *ふだんの生徒間の会話 *合唱の意義
9/3	学級活動	全員	①昨年度のVTR視聴(1年全部と2年入賞した学級) ②合唱に取り組む意義を確認 ③今年の合唱コンクールへの思いをまとめる。(学級、個人)	①VTRの準備 ①ワークシートの活用 ③ワークシートの活用 *昨年度、各学級が合唱練習を通して前進したことを強調する。 *体育大会での成果に触れる。
9/7	放課後	合同委員会	ワークシートをまとめてプリントを作成する。	
9/8	放課後	合同委員会	今後の活動の方向について話し合う。 1単位時間の活動計画案をつくる。	*失敗に学び、成功を生かすことをアドバイスする。 *一人一人の生徒が意欲を持って活動できるような内容にさせる。

(資料1) 事前の指導と生徒の活動



	活 動 の 内 容	指 導 ・ 援 助 の 留 意 点	評 価 の 観 点
活 動 の 開 始	1. 開会 2. 活動テーマ（議題）の発表 3. 活動内容の説明 （実行委員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に板書させておく。 「合唱コンクールの目標を作ろう」</li> <li>・模造紙で説明させる。</li> <li>・活動内容を生徒全員がよく理解できるようにするため、必要に応じ教師は補足をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員の提案を真剣に聞いたか。</li> </ul>
活 動 の 展 開	4. プリント配布、読み合わせ ①学級の合唱の意義は？ （実行委員から） ②合唱コンクールへの思い 5. 実行委員の指示で班座席に移動する。 ～昨年度の合唱コンクールの経験を思い出し、 i うまく行ったことは？ ii うまく行かなかったことは？ を班ごとに話し合い、短冊に記入する。 6. 班で話し合った内容を短冊をもとに、班長が発表する。 7. 実行委員を中心に、短冊を黒板を使って分類して、成功と失敗の共通項をまとめていく。	<b>思いを共感する方法として有効</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模造紙に書いておく。</li> <li>・合唱コンクールへの各自の思いは本人に読ませる。</li> <li>・実行委員が例を示せるように、準備させておく。</li> <li>・班長の司会のもと、円滑に話し合いができるように、机間指導をする。</li> <li>・うまく行ったこと、行かなかったこと→短冊の色を分ける（3枚ずつ）</li> </ul> <b>C</b> 3枚にこだわらず、必要枚数を準備してもよい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声で発表できたか。</li> <li>・班の話し合いに積極的に参加できたか。</li> <li>・他の班の発表を真剣に聞いたか。</li> </ul>
活 動 の ま と め	8. まとめた内容を黒板に書き出す。 9. 次回、学級の目標を話し合って決定することを予告する。 10. 閉会 *担任から——評価とまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やる気がなかった」というような意見に対しては、教員から質問等を行う。</li> </ul> 「自己評価カード」等の記入の必要性？ <b>良い評価だった</b>	

（資料2） 学習活動案（それぞれの項目について、工夫する部分を太字で示した）

イ 検証授業 2 (M中)

(ア) 学習活動案

前回のS中の学習活動案を改善したものを用いて、再びM中で検証授業を試みた。今回の学習活動案の改善点は、以下の通りである。

- ・昨年度の合唱コンクールへの取り組みを書かせるために、その考え方の基本となる語句を、「成功面での成果」と「今後の取り組みの課題」とにはっきり分けた。

〇〇〇したから、〇〇〇できた

〇〇〇できなかったから、〇〇〇したほうがよい

- ・それぞれの班の発表の内容を明確にすると同時に、修正が可能で、かつ発表後に整理しやすくするための方法として、マグネットシートを活用した。
- ・班の意見を整理しやすくするために、黒板上に座標軸を書き、その意見の傾向をはっきりさせた。(資料4参照)

本時の展開 司会：前・後期学級委員及び合唱コンクール実行委員

	生徒の活動内容	指導・援助の留意点	評価の観点
活動の開始	1. 開会 2. 活動テーマ(議題)の発表 3. 活動内容の説明(実行委員)	・事前に黒板に掲示・板書させておく。「合唱コンクールの目標をつくろう」 ・掲示した模造紙で説明。 ・活動内容を生徒全員がよく理解できるように必要に応じて教師が助言・質問をする。	・実行委員の提案を真剣に聞いたか。
活動	4. プリント配布 ①クラスの合唱の意義は? ②クラスみんなの思いを再確認する(実行委員から) 5. 実行委員から班での話し合いの内容と方法について説明 6. 昨年度の合唱コンクールへの取り組みや経験を思い出し、個々に書いてみる	・前々回、前回のプリントをまとめたものを配布 ・合唱コンクールの思いについては各班から、1名ずつ実行委員が指名して発表させる。 ・実行委員が例を示せるように、準備させておく。(配布プリントの中に書き方の例をしめす。また、班員の意見を聞きまとめるためのスペースもつくる) ・班長の司会のもと、円滑に話し合いが進むように、机間指導をする。	・班の話し合いに積極的に参加できたか。
の展開	A「〇〇〇したから、〇〇〇ができた」 B「〇〇〇できなかったから、〇〇〇したほうがよい」 実行委員の指示で黒板に移す 7. 班ごとに発表しあい、まとめ短冊に記入する。 8. 班で話し合った内容を班長が発表し、黒板に分類し、これからの目標になる生徒の気持ちと具体的な取り組むための方法などの共通項をまとめていく。	・プリント内のワークシートに思いついたものを記入させる。 ・AとB→短冊の色を分ける(2枚ずつ配布) ・生徒全員が理解できるような大きな声で発表するように、アドバイスを。 ・生徒がまとめるときに分類しきれないときは、アドバイスをあたえるがなるべく生徒自身たちの発言を生かす方向で分類する。	・真剣に過去の取り組みを考えたか。
活動のまとめ	9. まとめた内容を黒板で確認する。 10. これをもとに次回の学活でクラスの目標を話合って決定することを予告する。 11. 「日記カード」記入。 12. 閉会	・「やる気がなかった」というような意見に対しては、教師から質問等を行なう。	・他の班の発表を真剣に聞いたか。

(資料3) 学習活動案

方法や行動	
練習あるべし!	みんなが自信をもって大きく声を出してくれば良かった
人前で歌うとうまくいく!	練習のときみんながそろわなかったので呼びかけるといい
パートリーダーが先導してくれて朝練習がしっかりできた	団結が遅く、朝練習に遅れる人がいた
他に6例	他に5例
成功	失敗
まじめにやるとうまくいく!	
集中して取り組もう!	集中できなかった
個人やみんなの思い	



(資料4) マグネットシートを活用した意見の分類分け

(イ) まとめ

- ・自己評価カードの結果から

<評価項目>

(学級の人数 39人)

実行委員と学級委員がつくってくれたプリントや班の話し合い、他の班の発表のなかで、合唱コンクールへのクラスの仲間の「思い」を感じることができたか。

よくできた	10人
まあまあできた	26人
あまりできなかった	3人
できなかった	0人

去年の合唱コンクールへの取り組みをふり返り、「〇〇したから、〇〇できた」「〇〇ができなかったから、〇〇したほうがいい」という成果と課題を、はっきりさせることができたか。

よくできた	16人
まあまあできた	20人
あまりできなかった	3人
できなかった	0人

合唱コンクールにむけての班の話し合い活動に自分から参加できたか。  
(意見を言う、仲間の発言をしっかりと聞く、マグネットシートに書くなど)

よくできた	16人
まあまあできた	19人
あまりできなかった	3人
できなかった	1人

この結果から見ると、学級活動の中で生徒が意欲的に動いている場面が多く見られ、学習活動案の改善の成果があったといえる。

②「学級・学校生活の改善への取り組み」についての学級活動（H中）

ア 実践の過程

(ア) 開校20周年を迎えたH中学校では、「新たなるスタートライン～Do your best～」というスローガンのもと、生徒会が活動している。そこで本学級でも周年行事を活用し、日常生活の充実・発展を願って4月より次のような活動を行ってきた。

㉑週末に学級委員・班長・副班長による班長会を開催する。  
(週目標決め)

ねらい：リーダーの育成

㉒2学期になり、学級の雰囲気 がまとまりに欠ける点が出てきた。そこで他の生徒の気持ちを知るために一日のエピソードをつづる「今日のできごと」と題する5行日記（資料6）を書かせ、まとめを学級通信の形で配布している。

ねらい：他の生徒の「思い」を共有する

㉓10月末、学校の節目となる周年行事に参加、その体験を生かして「新たなるスタート——これからの歴史作り——」という課題で学級活動を行う。

ねらい：「期待や願い」を語り合い、「学校の成長過程」を共に考える

月	学校行事	学級での取り組み
4	生徒会オリエンテーション	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px;">班長会 (週目標決め)</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px;">今日のできごと</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px;">新たなるスタート</div> </div>
5	生徒総会	
6		
7	球技大会	
8		
9	水泳大会・運動会	
10	学習発表会・生徒総会 周年行事	
11	検証授業	
12		
1		
2	スキー教室	
3	3年生を送る会	

(資料5) 4月からの学級での取り組み

今日のできごと

学級で、学級生活の中で、勉強で、家で、昨日・今日、あったこと、おもしろかったこと、うれしかったこと、感動したこと、驚いたこと、悲しかったこと、などなど。自分のこと、仲間のこと、家族のことなどなど。君たちの生活を送るエピソードを記入してください。  
※名でも、ペンネームでもO.K. ただし他人を中傷する事、断りなしにことばはだまは

なまえ ( 〇〇〇〇 ) ( 9 ) 月 ( 24 ) 日 ( 木 ) 曜日

たんたんとクラスの雰囲気が明るくなってきた。  
球技大会も近づいているので、今日の昼休みに友達とバスケットボールをした。この調子で行けば学年優勝も夢ではないと思って。

(資料6) 5行日記「今日のできごと」

	活動のねらい	活 動 の 内 容
活 動 の 開 始	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーを育てる</li> <li>・創立から現在までの学校の様子を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動の内容を司会から説明する。 大きな声で他の生徒にわかるように説明できる</li> <li>・OHPにより、創立から現在までの中学校や関連する写真を見る。 (4枚の写真に班長会でコメントを入れる) 歴史とともに移り変わるもの・変わらないものがあることを知る</li> <li>・歴代の校長への聞き取りのまとめを発表する。 (班長会のメンバーが順番に読み上げる)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の生徒の気持ちを知る</li> <li>・自分の意見を表明する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周年行事に参加して感じたことのまとめを読む。(配布、黙読) 自分の気持ちと異なった考えを持っている人があることを知る</li> <li>・OHPと歴代の校長への聞き取りの発表、周年行事に参加して感じたことのまとめを読んで、今後、一人一人がこの学校を「どのような学校にしたいか」を考え、結果をマグネットシートに記入する。 生徒全員が自分の意見を表明できるように援助する</li> <li>意欲的に意見を表明することができる</li> </ul>
活 動 の 展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「思い」を共有する</li> <li>・自分の考えを探す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が記入したマグネットシートを集め、黒板の班ごとの欄に貼る。 黒板を見て、他の生徒の「思い」を共有することができる</li> <li>・黒板に貼られた全員の思いを見て、再度「どんな学校にしたいか」を考え、さらに「できることは何か」を探し、カードに記入する。 自分の「思い」を書けず、迷っている生徒への支援をする</li> <li>他の生徒の意見から、自分の考えを探し出すことができる</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「願い」を語り合う</li> <li>・「学校の成長過程」を共に考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座席を班ごとの順にとり、学級で取り組んでいこうというものについて語り合う。 生徒相互の話合いにより、「願い」を語り合うことができる</li> <li>「学校の成長過程」を共に考える意識や機会を持つことができる</li> <li>・話合いのまとまった班は、班長が話合いの結果をカードに記入する。</li> </ul>
活 動 の ま と め		

(資料6) 学級活動案 (生徒自ら会を進めることを目標としている)

イ 検証授業3：実践の過程（p.10）㉔、㉕、㉖を加味した具体的な展開

題材名 第2学年「新たなるスタートライン～Do your best～」

ウ 検証から見られる課題

(ア) 本時は、「一年間の学級活動をまとめる取り組み」の導入の時間としてとらえていた。そこで次の点をねらいとした。

①本時に至るまでに事前の活動を班長会が行うことができたか。

→ 生徒の発想によるこれまで在籍した校長先生への聞き取りが実現できた。

②司会進行を生徒の手で行うことができたか。

→ 司会者はよく取り組んだ。

③自分の意見を表明するとともに、考えをより深めることができたか。

→ マグネットシートに記入する際、何度も書き直す姿勢が見えた。

④他の生徒の思いを共有できたか。

→ マグネットシートの色を班別にしたことにより、全員が黒板に注目することができた。

⑤思いを話し合えたか。

→ 話し合いを円滑に進めるために、事前に自分の思いをカードに記入することによって、話し合いがより円滑に進めることができた。

(イ) 生徒たちの学級活動の様子や授業後の感想から「活動のねらい」はおおむね実現できたものと思われる。しかし、研究協議の中で、以下の点が課題として指摘された。

①リーダーをさらに育てる必要がある。

ポイントを押さえた教員の支援が少なすぎた。

→ 司会者に話し合いを進めさせたいあまり、まかせきりになり全生徒に次の行動をわからせることができなかった。

ある程度の範囲まで、教員側で行うべきだった。

②これまで在籍した校長先生への聞き取りのまとめの発表は時間が長かった。

→ 内容を精選させるのも学習である。

③学級通信の「周年行事の感想のまとめ」に教員のコメントがほしかった。

→ 思いを共有するためにはコメントを入れるのは不可欠である。

④マグネットシートをせっかく班別に色を変えたのに、共通した意見をまとめられず残念だった。

→ 並べかえた方が、次の活動につながる。

⑤活動意欲を高める取り組みを今後も行う必要がある。

(ウ) この1時間の学級活動について生徒に「授業についての改善」を指摘させたところ、次の6点が出た。

①OHPを見た後に他の人の感想を聞きたかった。

②マグネットシートに記入したものを読み上げてほしかった。

③先生もマグネットシートに記入し、一緒に取り組んでほしかった。

④一人一人の思いに対する質問をする時間があると良かった。

⑤最後に班の話し合いの結果を発表してほじかった。(他の班の考えもわかる)

⑥考えを深める時間が少なかった。

### 3 研究のまとめと今後の課題

#### (1) 研究のまとめ

本研究は、学級活動、中でも特に話し合いに主体的に取り組めず、指示がないと動かない生徒、行事などの失敗や挫折感を克服し、次の行事や日常の生活に生かせずにいる生徒に対し、活動意欲を高める授業改善を図ることであった。その結果、次のことがわかった。

##### ア 個と集団の理解についての実態調査と分析

生徒の実態を把握するための方策を聞き取りなどの調査を行った結果、生徒とのコミュニケーションを図ったり、様々な資料(生徒の作文、アンケート、班ノート、自己評価カード等)から生徒の実態を把握する努力を行っていることがわかった。

##### イ 授業研究の実践と検証

学級活動において生徒が十分に話し合い、発表し合うという主体的な活動の工夫のために、計3回の検証授業を行った。その結果、以下のような指導の工夫をすることにより、生徒のより主体的な学級活動ができるとわかった。

①班長等代表生徒と事前に打ち合わせる時間を確保することが大切である。

②生徒による事前調査等の結果を発表させることにより生徒全員の思いを共有することができる。

③主体的な話し合いに参加させるための工夫が必要である。

個人の意見→班単位の話合い→学級全体の話題へ

④発表の工夫としてマグネットシートを活用する。

画用紙等ではなくマグネットシートにするのは、発表後に出された意見等をまとめるときの再構成(貼りかえ)のためである。

⑤単に黒板に資料を提示するのではなく、その配置についても工夫する。

⑥班で出された意見を全体の意見として共有できるように配慮する。

⑦できるだけ生徒の主体性をうながす必要最低限の教員の助言が大切である。

#### (2) 今後の課題

学級活動は、少なくとも学年の教員が共通理解の上で実施することが好ましい。今回、組織力を高めるための工夫の実践研究は、やむを得ず行うことができなかつた。しかし、上記(1)の実態調査や本研究員の間での情報交換から次のような取り組みが考えられ、今後の具体的な研究課題としたい。

①3年間を見通した継続的な指導計画と具体的な題材を整備すること。

(学級活動の指導に必要な資料等を収集し、活用できるように整備すること)

②時間割に組み込む等の工夫により定期的に学年会議等を開催し、生徒の情報交換、共通理解を深め、望ましい生徒像の共有化を図ること。

### Ⅲ 第2分科会

副主題「各種委員会活動と学級・学年のつながりを重視した生徒会活動の工夫」

#### 1 副主題設定の理由

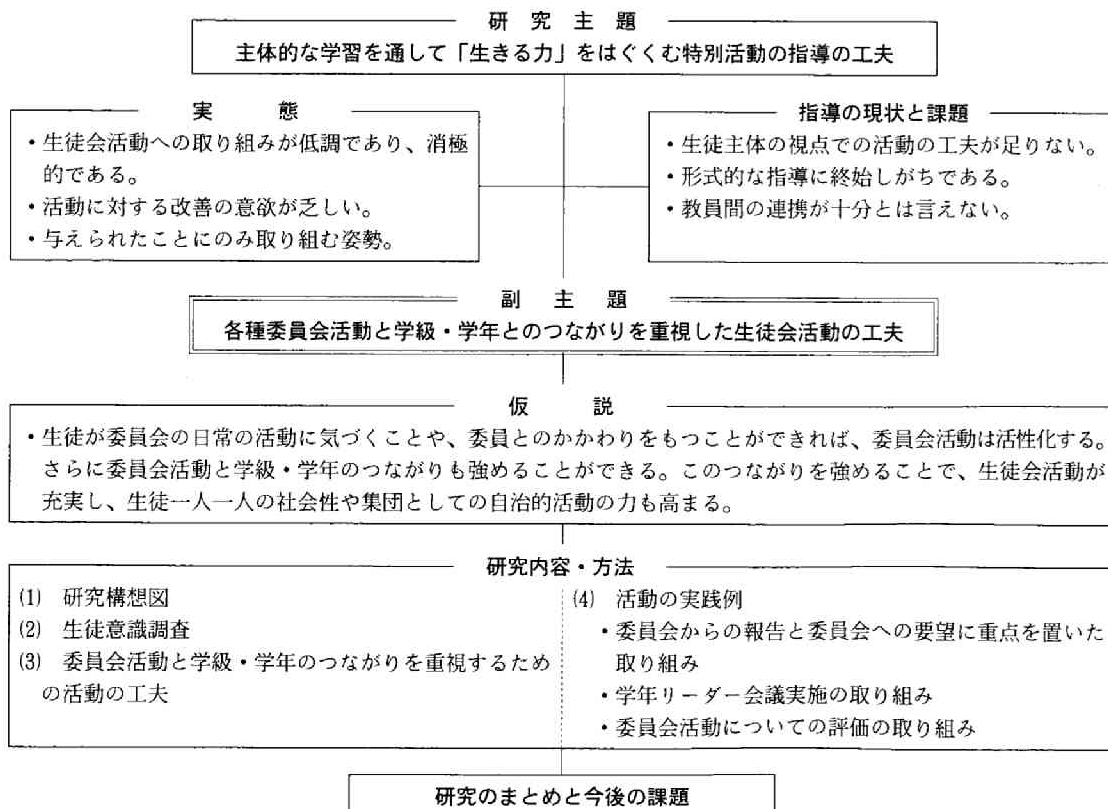
ここ数年、中学校において「キレる」という言葉に表される衝動的・突発的な行動が発生するなど、中学生の生活の感覚が変わってきている。この行動は、かつての中学生が起こす校内暴力とは異なる新たな校内の生徒間暴力等を起こしている。これら衝動的・突発的な行動を示す生徒に対して、中学校における生徒会活動を取り上げ指導することは、TVゲーム等バーチャルリアリティに一喜一憂する感覚に、人間的なかわりや集団としての活動を見直し、これからの時代の中で主体的に生きるための「生き方の指導」の伝達であり、今日の教育課題につながっている。

そこで、本研究では生徒の学校生活での様々な活動の場面で、生徒間のかかわりや協力の関係を具体的な活動に展開するとともに、その中で生徒会活動の見直しを図りたいと考えた。

今日、中学校の各種委員会活動（以下「委員会活動」とする）は、各学級の生徒の代表によって運営されているが、マニュアル化された中で前年度踏襲の一面は否めず、学級・学年相互のつながりをもった活動の推進が課題である。そこで、特に本研究では委員会活動と学級・学年の活動の連帯・連携化を図る指導の工夫を重点に研究を進めるために、副主題を設定した。

#### 2 研究の内容

##### (1) 研究構想図





(2) 委員会の活動に対する生徒意識アンケート

委員会活動を、より活性化していく工夫や取り組みを検討するために、委員会活動に対する生徒の意識調査をした。本調査を行う前に、A中の1年生とB中の3年生でプレアンケートを実施したが、その結果、ある程度中学校の生徒会活動について理解し、本研究のねらいとする委員会活動の工夫を今後実施する上での問題点を明らかにするため、本調査の対象を第2学年とし、下記の質問により調査を行った。

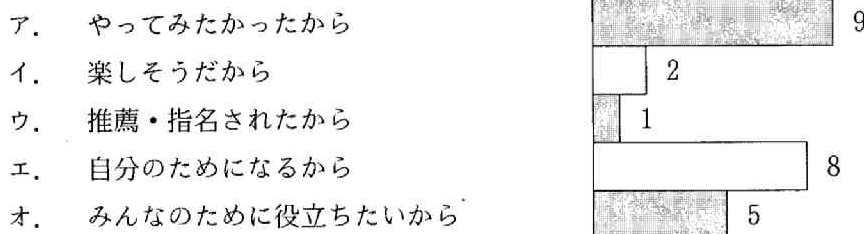
① 質問内容と結果 (調査対象：C中2年 36名)

(数字：人数)

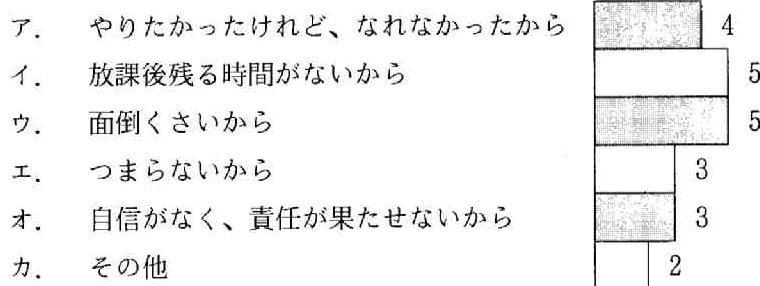
質問1 あなたは委員会に入っていますか。



質問2 あなたが委員会に入った理由は何ですか。



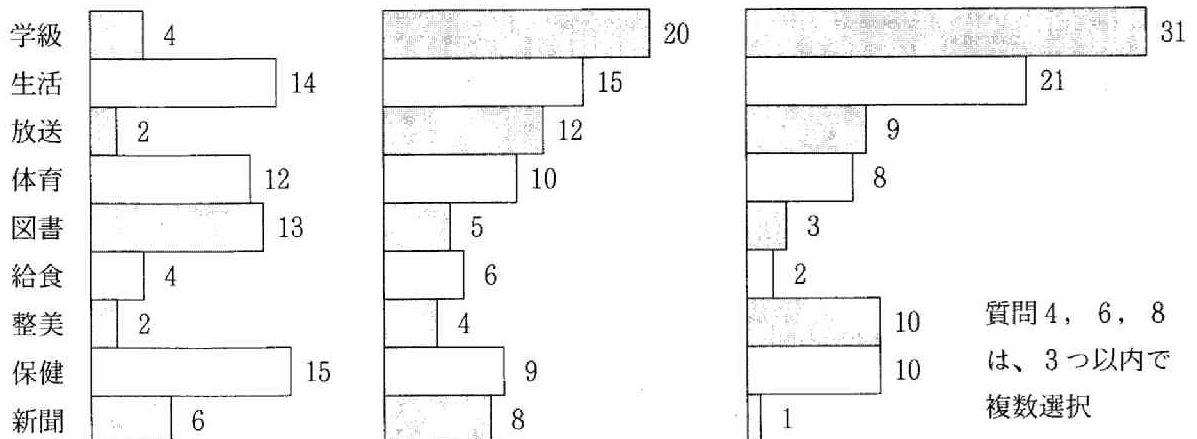
質問3 あなたが委員会に入らなかった理由は何ですか。



質問4 今度やってみたい委員会は何ですか。

質問6 身近に感じる委員会は何ですか。

質問8 必要だと思う委員会はどれですか。



質問4, 6, 8  
は、3つ以内で  
複数選択

質問5 その委員会をなぜやってみたいと思ったのですか。（質問4の理由）

- |    |                  |     |
|----|------------------|-----|
| ア. | 楽しそうだから          | 18名 |
| イ. | やりがいがあるから        | 22名 |
| ウ. | その委員会の仕事が好きだから   | 5名  |
| エ. | その仕事が簡単でラクにできるから | 3名  |
| オ. | その他              | 4名  |

質問7 その委員会が身近に感じる理由は何ですか。（質問6の理由）

- |    |                   |     |
|----|-------------------|-----|
| ア. | いつも活動しているのを見かけるから | 19名 |
| イ. | 自分がやったことがあるから     | 18名 |
| ウ. | みんなにとって、大切な仕事だから  | 13名 |
| エ. | 友達がその委員会に入っているから  | 6名  |

質問9 その委員会が必要だと思う理由は何ですか。（質問8の理由）

- |    |                  |     |
|----|------------------|-----|
| ア. | 普段の生活に役立っているから   | 36名 |
| イ. | 行事に役立っているから      | 13名 |
| ウ. | 学校生活が楽しくなるから     | 8名  |
| エ. | 生徒が中心になって活動できるから | 10名 |

質問10 委員会をやって良かったと思えることは何ですか。

- |    |                      |     |
|----|----------------------|-----|
| ア. | 楽しかった                | 9名  |
| イ. | やりがいがあった             | 21名 |
| ウ. | みんなの役に立てた            | 5名  |
| エ. | いろいろな人と知り合えた         | 10名 |
| オ. | 知識がふえたり、仕事ができるようになった | 11名 |

## ② 調査結果の傾向及び考察

複数の学級で行った結果はおおむね次のような傾向を示した。

ア 委員会活動への参加が、単なる「楽しさ」よりも生徒一人一人の「やりがい」に価値基準が置かれている傾向が強く、その傾向は、学年進行により強くなる。ただし、地道で目立たない活動ではなく、ある程度目立ち、周囲から見えやすい活動において、生徒は「やりがい」を感じている。

イ 全員が委員会に所属し、授業時間内に活動するよう配慮されている小学校に比べ、放課後の活動の多い中学校の委員会活動は生徒の気持ちとして敬遠されがちである。そのため、委員会の活動日を設定するなどの工夫が必要である。

ウ 今回アンケートを実施すること自体が、日常の委員会活動について意識することにつながり、意欲的、積極的に委員会活動を行うきっかけを作った。

以上のことから、日常的に委員会活動が見え、内容にやりがいがあり、取り組みやすければ、生徒は、進んで委員会活動に取り組むと思われる。そこで、委員会活動を「見える活動」にするためには、生徒にとって日常の学校生活の中心である学級や学年との連携を図ることが必要である。

(3) 委員会活動と学級・学年とのつながりを重視するための活動の工夫

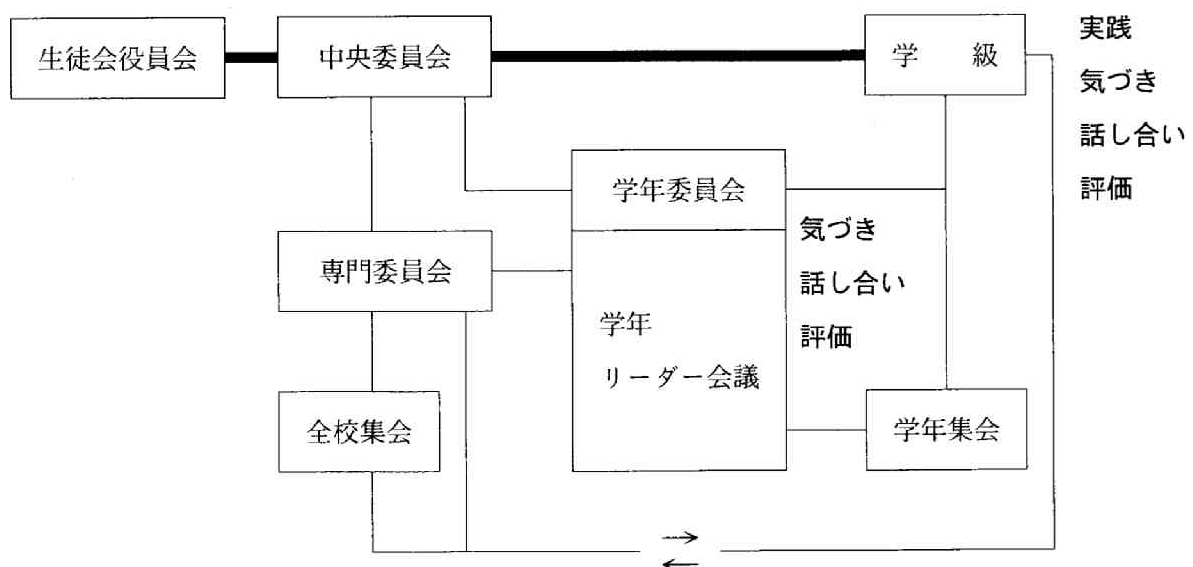
委員会活動と学級・学年とのつながりを重視した生徒会活動を行うために、活動の工夫や重点化を図った。

① 活動の工夫の内容

- ア オリエンテーションの改善への取り組み → ・委員会のオリエンテーションを充実し、生徒に委員会活動の内容を明示する。
- イ 委員会優先日の設定への取り組み → ・生徒が委員会活動に参加しやすいように優先日を設定する。
- ウ アンケート調査実施による取り組み → ・アンケートを実施し、一般生徒に委員会の重要さを気づかせるきっかけとする。
- エ 委員会間の連絡調整を図った年間計画への取り組み → ・委員会が相互に協力できるように連絡調整ができる年間計画を作成する。
- オ 委員会からの報告と学級から委員会への要望に重点をおいた取り組み<実践例1> → ・委員会活動が一般生徒から見えるように、学級での報告に工夫をし、一般生徒が考えるきっかけを与える。
- カ 委員長の選出への取り組み<実践例2> → ・学年を主体として委員長を選出する。
- キ 「学年リーダー会議」実施への取り組み → ・学年単位での委員会活動を活発にし、あわせてリーダー養成を図る。  
<実践例2>
- ク 委員会活動についての評価の取り組み → ・委員会活動に対して多様な評価をすることで、気づきや考えを深める。  
(自己評価・点検表) <実践例3>

② 委員会と学級・学年の連絡調整を図る組織の工夫（組織例）

学級と委員会の連絡調整、学年集会や学年リーダー会議との連携を図ることで、一般生徒の生徒会への意識を高める。



### ③ 委員会活動と学級・学年の連絡調整を図る年間活動計画の工夫（計画例）

一般生徒が委員会の日常の活動に気づくことや、委員とのかかわりを持つことができれば、委員会活動を充実させることができる。このため年間活動計画も工夫し、一つ一つの活動と委員会の活動との関連を明らかにする必要がある。これにより、以前より委員会活動の活性化が図られ、生徒会活動が充実し、生徒一人一人の社会性や集団としての自治的活動の力の向上が期待できる。特に、学校行事・生徒会行事・活動目標などへの取り組みを整理し、さらに活動への評価という考えを積極的に取り込むことで、生徒会活動の活性化を図る。

下記の表では、一般的な中学校を例として考えた。行事として生徒会・学年・学級が積極的に取り組める運動会・文化祭・生徒総会を中心にし、その間に委員会活動が活発になる取り組みを設定した。また、最近では、生徒総会年間1回という学校もあり、その対策として3学期に來期の方針を検討していくという計画を立てた。

	生徒会役員会	中央委員会	生徒集会	委員会	学年委員会	学年・学級
4月	オリエンテーション	活動方針確認	認証式	活動方針確認	学年～目標づくり → 学年リーダー会議 → 学級～目標づくり	
5月	運動会への取り組み	運動会への取り組み	—————	運動会への取り組み	運動会への取り組み	運動会への取り組み
6月	活動内容の点検	活動内容の点検	生徒総会	活動内容の点検	目標の点検 学級 → 学年リーダー会議 → 学年集会	
7月	1学期の反省	1学期の反省	学年集会 → 全校集会	1学期の反省	1学期の反省	1学期の反省
9月	前期反省	前期反省	学年集会	前期反省 (自己評価)	前期反省 学級 → 学年リーダー会議 → 学年集会	
10月	引継ぎ式 文化祭への取り組み	引継ぎ式 文化祭への取り組み	↓ (生徒総会) 認証式	引継ぎ 文化祭への取り組み	引継ぎ・学年リーダー会議 文化祭への取り組み	文化祭への取り組み
11月	活動内容の点検	活動内容の点検	学年集会	活動内容の点検	目標の点検 学級 → 学年リーダー会議 → 学年集会	
12月	2学期の反省	2学期の反省	↓ 全校集会	2学期の反省	2学期の反省	2学期の反省
1月	活動内容の点検	活動内容の点検	—————	活動内容の点検	活動内容の点検	
2月	後期反省	後期反省	学年集会	後期反省 (自己評価)	後期反省 学級 → 学年リーダー会議 → 学年集会	
3月	來期方針検討	來期方針検討	↓ 全校集会	來期方針検討	学年のまとめ 学級 → 学年リーダー会議 → 学年集会	

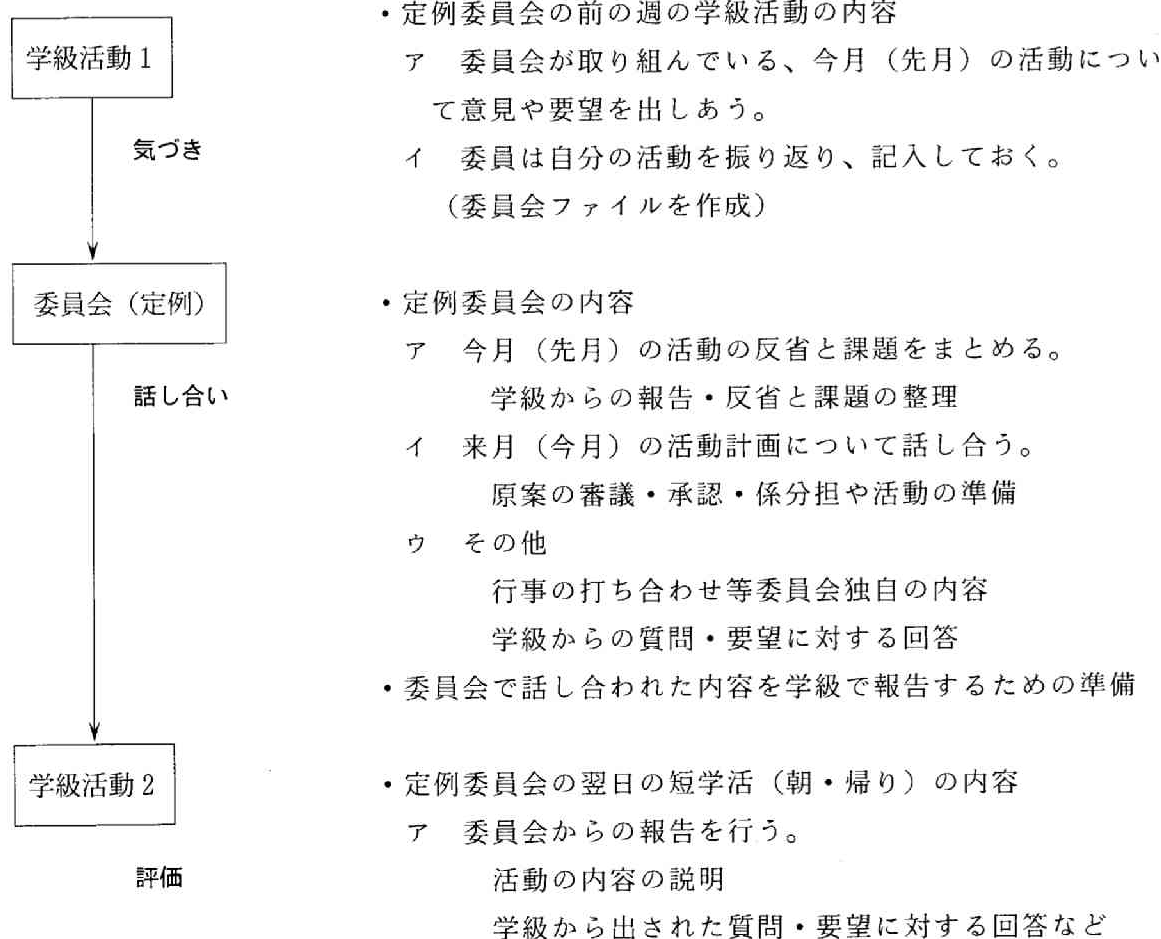
#### (4) 活動の実践例

##### <実践例1：K中 委員会からの報告と委員会への要望に重点をおいた学級活動の取り組み>

学校行事等での、委員会の取り組みでは、多くの生徒が充実感を得ることはあるが、日常の委員会活動になると、どうしても形式的な活動に終始してしまいがちである。委員は学級からの代表者であり、学校生活の改善・向上のために活動しているという意識が乏しいように感じられる。また、学級において、一人一人が学校生活の課題に目を向け、改善・向上のために委員会活動に参加、協力していこうとする姿勢が大切である。日常の委員会活動を「見える活動」にすることで、委員の活動が学級で認められ、委員としての自覚が高まる。また、学級からの要望等が、委員を通して委員会や生徒会役員会へと吸い上げられていくことにより、生徒一人一人が、生徒会の一員であるという意識や所属感が強まるものと考えた。

本実践例は、以上のような考え方から、定例委員会の前後の学級活動を活用し学級と委員会とのつながりを強化することに重点をおいた取り組みである。

##### ① 活動計画と内容



以上を継続して行うことによって、生徒一人一人の委員会活動に対する意識を高め、生徒会活動を通して、自分たちの身近な問題について考え、自分たちが実践していくことでその解決を図ろうとする姿勢が育っていくものと考えられる。

② 実践を通して

生徒の感想

- ・はじめは、みんなの前で発表するのはいやだったが、慣れてきて大きな声で発表することができるようになった。
- ・衛生検査をして、だんだんと効果が上がってきた。よびかけをしてよかった。
- ・学級からの質問に答えるために、委員会で話し合ったことで、委員会としての仕事の内容がよくわかった。

教員の感想

- ・委員長を中心として、生徒だけでできる委員会活動の基盤づくりができた。ファイルすることで、前月の目標や取り組みについてすぐ振り返りやすくなった。
- ・学級の声（質問・要望等）が、委員会へ吸い上げられ討議されることで、生徒一人一人が委員会を身近なものとして受けとめることができたようだ。
- ・委員の生徒が、学級の代表者として委員会に積極的に参加し、またそこでの内容を各学級に報告することで、委員としての自覚や充実感を持てた。

学級活動1で使用

9 月 生活 委員会	
* 今月の生活目標 『はじめのある学校生活を送ろう』	
1 今月の目標と活動内容	
(目 標)	
(活動内容)	
あなたの学級は目標が達成できましたか	◎ ○ △ ×
(理由・気づいたこと)	
2 委員会への要望・意見・質問など	
3 今月の活動をふりかえって	
目標達成のために活動することができましたか	◎ ○ △ ×
(理由・気づいたこと)	

定例委員会で使用

10 月 生活 委員会	
* 今月の生活目標 『自分の役割に責任を持とう』	
1 先月の反省	
(目標・活動内容は達成できましたか)	
2 学級からの要望・意見・質問への回答	
(学級から)	(委員会としての回答)
3 今月の目標・活動内容	
(委員会としての目標)	
(目標達成のための活動内容)	

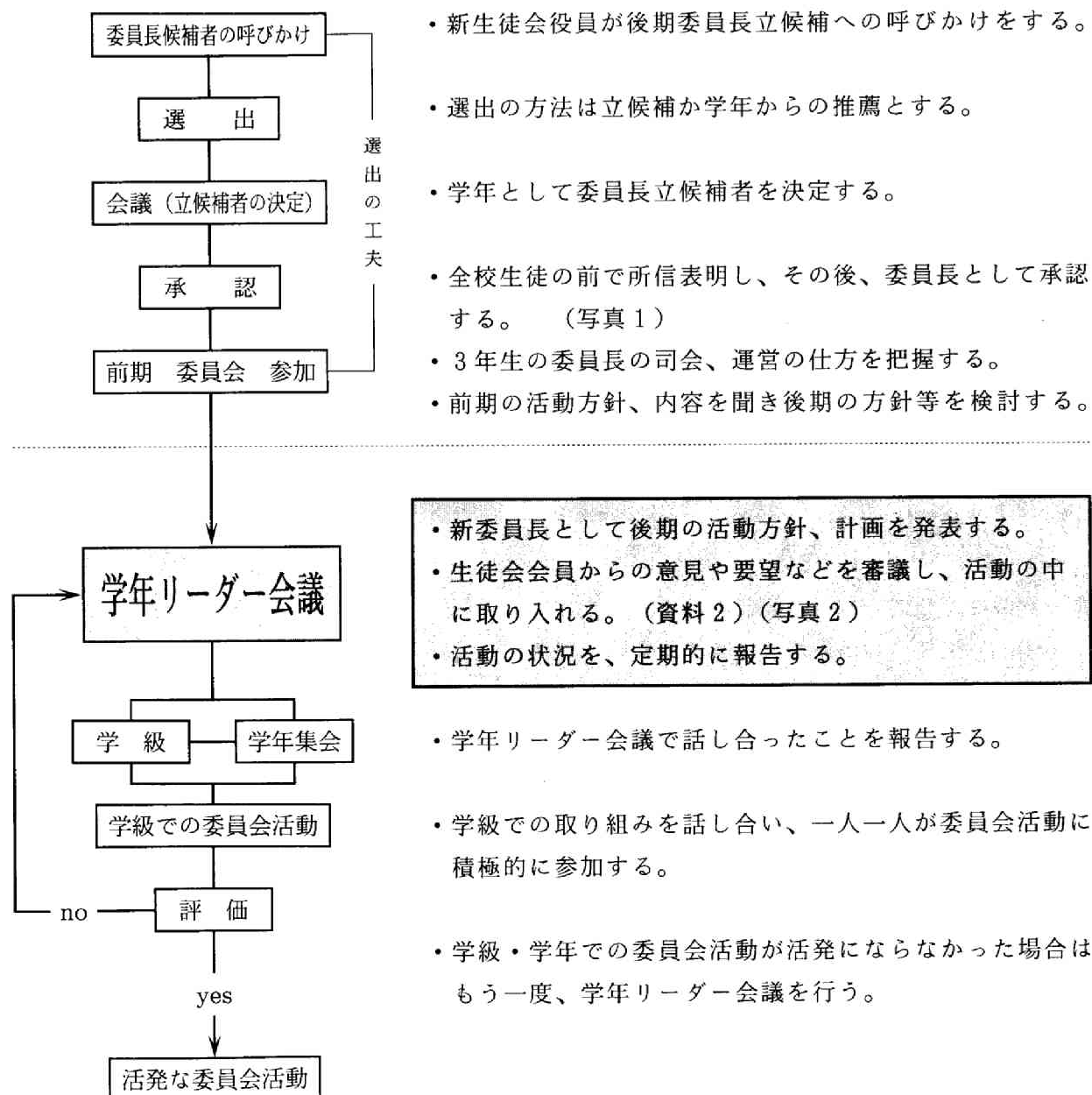
(資料1 委員会ファイル)

＜実践例 2：T中 学年リーダー会議実施への取り組み＞

これまでの本校での委員会活動は、個々には意欲的に取り組みを展開する活動はあっても、それが、全体としては機能することが少なかった。また、自分の役割についてはよく責任を果たし活動しているが、学級や学年の集団の中では生かされていないことが多かった。後期の委員会活動は2年生が委員長を務める立場でもあり、委員会活動と学級・学年とのつながりを密にし、学年として委員会活動が活発になるようにしたいと考えていた。そこで、生徒会役員と新委員長と学級委員で構成された学年リーダー会議を行うことにした。

(1、3年生は、学級委員と委員会の代表者とする。)

① 学年リーダー会議の活動計画 (第2学年)



(資料2)  
学年リーダー  
会議資料

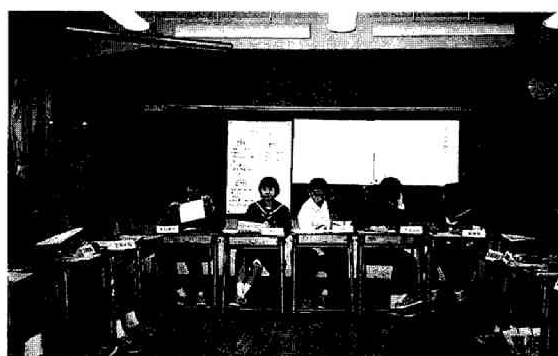
(見開き)

左：前期反省  
右：後期方針

前期保健委員会 委員長名 3年 組	後期保健委員会 委員長名 2年 組
<p>1. 前期活動方針 (※) (わからなかったら、3年生の委員長さんについて書く)</p> <p>清潔さを保つために積極的に活動しよう。</p>	<p>1. 前期活動方針 (※) &lt;新委員長として&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔さを保つために積極的に活動する。</li> <li>・新聞は楽しい新聞も。</li> <li>・決めた仕事をきちんとやり通す。</li> </ul>
<p>2. 前期活動内容 (わからなかったら、3年生の委員長さんについて書く)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石けんの取りかえ</li> <li>・17人が保健室に運んできた。</li> <li>・トイレの消毒</li> <li>・検診などの手洗い</li> <li>・トイレペーパーの取りかえ</li> <li>・月に1度新聞を出す</li> </ul>	<p>2. 前期活動内容 (※) &lt;新委員長として&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流しの掃除(木の)</li> <li>・新聞も出す(広報委員)</li> <li>・学校の掃除(美化委員)</li> <li>・検診の手洗い</li> <li>・消毒や石けんトイレペーパーの補充</li> <li>・17人を保健室に運んできた</li> </ul>
<p>3. 前期の専門委員会の反省</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れずに活動した。(3年生)</li> <li>・2学期に入、2年やわらなかつた。(3年生)</li> <li>・消毒をやらなかつた。</li> <li>・トイレ掃除した。</li> <li>・仕事をきちんと進んでやなかつた。(14年組委員長)</li> </ul>	<p>3. 前期の専門委員会からの要望・意見の回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;要望・意見&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒(1枚)</li> <li>・トイレペーパー</li> <li>・石けんの取りかえ</li> <li>・検診の手洗いをしたい</li> <li>・月に1度の新聞を出してほしい</li> <li>・17人を保健室に運んできた</li> <li>・流しの掃除</li> </ul> </li> <li>&lt;新委員長としての回答&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の事は頑張る</li> <li>・新聞もより楽しい(広報委員と協力)</li> <li>・廊下の2つをやっていこうと思ふけど</li> <li>・学校掃除は美化委員と協力してやろう</li> <li>・流しは、ちゃんと汚れたら</li> </ul> </li> </ul>
<p>4. 後期の専門委員会への要望・引き継いで欲しいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の掃除</li> <li>・トイレの消毒</li> <li>・トイレペーパーと石けんの取りかえ</li> <li>・流しの掃除</li> <li>・17人を保健室に運んできた</li> <li>・検診の手洗い</li> <li>・月に1度新聞を出す</li> </ul>	<p>4. 後期活動内容の具体案&lt;新委員長として&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期が活動した内容はもうやる、新聞も月に1回出す。できたら広報委員と協力して。</li> <li>・流しの掃除はなるべく汚れたら軽くやる。でも一応20、10、30(7)の理由。</li> <li>・学校の掃除は美化委員と協力してやりたい。</li> </ul>



(写真1) 立候補者が所信表明



(写真2) 学年リーダー会議にて

② 実践を通して

生徒の感想 (学年リーダー会議を終えて)

- ・前期の活動はもちろん、新しい仕事も増やして、頑張っていこうと思います。
- ・学年リーダー会議は専門委員会を活発にするためにも、とても意義のあるものでした。
- ・他の専門委員長の発言がすごくて、私も見習い頑張ろうと思いました。
- ・僕たち、学級委員もクラスに戻って、今日の活発な話し合いを報告したいと思います。また、各委員会に積極的に参加し協力したいと思いました。

教員の感想

- ・学年リーダー会議を行うことにより、専門委員長の意識が高まり、やる気が見られた。
- ・学級内でも、委員会活動に積極的に取り組もうという協力体制が出てきた。
- ・学年リーダー会議を1、3年生でも行ってみたいと考えている。1年生は専門委員自身の自覚も高まり、活動の内容も把握できる。3年生は2年生に委員長は譲ったとしても最高学年としての自覚と誇りを持って協力してくれると確信する。



＜実践例 3：T中 委員会活動についての評価の取り組み＞

委員が自分たちの委員会活動を通して、自分にとってどのようなことができたのか、他の生徒に対してどのようなことができたのかを評価することで、委員会活動を見つめ直すことができる。また、委員一人一人にとって委員会活動の意義を深めることもできる。以上のねらいで、(資料3)のような「委員会活動についての自己評価」を行った。回答は、4つの選択肢から選ばせ、良くも悪くもない中間の選択肢は除いた。これは、自分の気持ちをより明確にするためである。

### 委員会活動についての自己評価

※前期の委員会活動を通して、自己評価をしてみましょう！  
どれかに○印をつけて下さい。

質問1) 委員会をやって楽しかったですか。

とても 楽しかった    楽しかった    あまり 楽しなかった    全く 楽しなかった

(その理由) \_\_\_\_\_

質問2) やりがいを持って委員会活動を行うことができましたか。

よく できた    できた    あまり できなかった    全く できなかった

(その理由) \_\_\_\_\_

質問3) 著の役に立つ活動を行うことができましたか。

よく できた    できた    あまり できなかった    全く できなかった

「できた」と答えた人はその例を挙げて下さい。

(その例) \_\_\_\_\_

質問4) 委員会でいろいろな人と知り合うことができましたか。

たくさん できた    できた    あまり できなかった    全く できなかった

質問5) 委員会をやって知識が増えたり、仕事ができるようになりましうか。

とても できた    できた    あまり できなかった    全く できなかった

最後に、あなたが委員会活動を行った感想を自由に書いて下さい。

.....

.....

.....

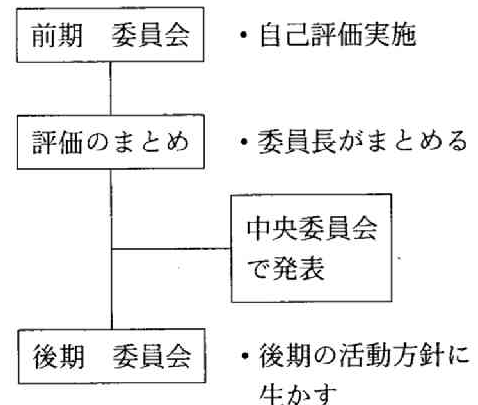
(資料3) 自己評価

これを繰り返すことで、今後、委員が自分の充実感だけでなく、他の生徒のことを視野に入れ組織的に活動できるようになれば、この自己評価の意義は大きい。また、あわせて委員会点検表の活用も有効であった。

	目 標	あなたのクラスは	内 容	要 望・意 見
生活委員会	チャイム着席を心がけよう	◎ ○ △ ×	1. .... 2. ....	きちんとチェックをしてほしい
図書委員会	図書室を利用しよう	◎ ○ △ ×	1. ....	本をふやしてほしい

(資料4) 委員会点検表 (例)

① 活動計画と内容



② 実践を通して

自己評価の結果から、委員は委員会の活動を通して、自分自身についてはおおむね満足しているようである。しかし、委員会活動の成果や他の生徒への働きかけという面については、不十分だと考えている生徒がいる。これは自己評価を行ったことで認識されたのではないだろうか。これら自己評価の結果は、委員会ごとにまとめられ、後期委員会に引き継がれた。

### 3 研究のまとめと今後の課題

#### (1) 研究のまとめ

本研究は、委員会活動と学級・学年のつながりを重視した生徒会活動の工夫を通して、委員会活動の中で日常の活動に気づかせ、他者とのかかわりを深め、生きる力を育てる実践を試みた。さらに、他の委員会との連携に基づいて計画・実践していくことを試みた。その成果について以下のように報告する。

##### ① 委員会活動優先日の設定について

一週間のうち、委員会活動が最優先される日を設定し、原則として委員会活動はその日とする。このことは、物理的に活動日が制約されることもあるが、生徒にとっては、活動日が明確となり、参加しやすいものとなった。

##### ② アンケートの実施について

委員会活動に対する、生徒のとらえ方で、「楽しい」活動ばかりでなく、「やりがい」のある活動に携わりたいという意欲が根本にはあることがわかった。

##### ③ 委員会と学級とのつながりについて

毎月の委員会の記録と、学級からの要望、それに対する回答が書き込める簡単な用紙を作成した。学級での報告の工夫により、委員会に所属していない生徒が委員会活動の中身に触れる場面が増えた。

##### ④ 学年リーダー会議について

委員会の前に、委員会間の連絡・調整を図り、原案をもちより検討することによって、委員の自覚が深まった。また、学年の状況に基づいて活動を考えていける場面ができた。

##### ⑤ 委員会の評価について

委員の自己評価や委員会に対する点検表を活用することで、生徒の気づきや考えが深まった。

#### (2) 今後の課題

今回の研究を通して、その基盤に据えてきた考え方は、特別な生徒会活動や行事の工夫というその学校ならではの特色づくりといった視点ではない。どこの学校でも、名称や数の違いはあるものの、日常的な生徒会活動として位置づけられている委員会活動の在り方をどうしていくべきかという視点である。したがって、本研究がどこの学校においても無理なく取り組んでいけるものとなることが最大のねらいであった。しかし、次のような点が課題として残った。

① 委員会活動が日頃の気づきを生かし、日常的なかかわりをはぐくむ場となるためには、毎月の定例委員会に向けて、事前に学級からの要望をとり、それに基づいた原案を作成する必要がある。さらに原案を作成する事前段階で、その委員会の担当教員間での打ち合わせを行わなければならない。そのための計画的な取り組みが必要である。

② 特に学年を越えた委員会担当の教員間の協力関係の構築は、そのおおもとに、年間の生徒会活動計画の共通理解が必至である。これらの前提条件の整備を通して、まず委員会がこれまでの委員会活動の見直しを始めることが大切である。

③ 委員会に属していない生徒たちにとって、すべての委員会の存在意義や活動の様子が伝わるように、学級での掲示物の工夫や学級活動での報告、さらに委員会の評価方法の充実・継続などが今後の課題として残されている。